

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272700980		
法人名	特定非営利活動法人 柳沢		
事業所名	グループホームいちょうの郷		
所在地	青森県三戸郡階上町大字赤保内字柳沢15-269		
自己評価作成日	令和3年8月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自立のために支援します。」「人生の大先輩としてその尊厳を大切にします。」を事業所の理念とし、日々のケアに取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興団地に開設して19年余り、運営推進会議を通じて町内会と関わり、ホーム主催のえんぶり鑑賞や夏祭りの行事に、地域の保育園児や保護者の参加が得られるまでに交流の輪を広げてきた。対外行事の自粛下で苦慮しながらも、地域住民から介護相談を受けて助言・協力する等、密接な関りを継続しようと努めている。 開設当初から勤続している職員が多く、職員同士が互いの気づきを共有し合い、より良い環境作りやケアサービスに繋げようと真摯に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示したり、申し送り時等に読み上げ、共有に努めている。	利用者一人ひとりの自立に向けて、生き甲斐と喜びのある日常をサポートすることを理念に掲げ、日々のサービス提供に取り組んでいる。管理者及び職員は理念に込めた思いを共有し、折に触れて理念を確認しながら支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策のため、地域との交流が難しくなっているが、運営推進会議の資料を送付する等して、地域との交流を図るようにしている。収束したら、地域との交流を図るための働きかけを再開していきたい。	運営推進会議への参加や避難訓練への協力の他、夏祭りには近くの保育園児等が参加する等、交流を行っていたが、コロナ禍で中断せざるを得ない状況である。今後は状況をみながら、より密接な関係性の構築に向け、働きかけを継続していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策のため、運営推進会議を開催できない状態が続いているが、資料等の送付により、事業所の持つ実践経験等を伝える取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価への取り組み状況について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かすように取り組んでいる。	コロナ禍のため、会議は書面で開催しており、ホーム内の様子や行事報告等を2ヶ月毎にメンバーに送付している。また、返信用紙を同封し、メンバーの意向を聴取できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対策のため、集まった運営推進会議は開催できていないが、町担当者へも資料等を提出し、事業所の取り組みを伝えるようにしており、協力関係を築けるように取り組んでいる。	利用者に関する諸問題の他、地域住民からの介護相談に関わる指導や助言を求め等、日頃から役場との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は内部研修を行い、身体拘束のないケアに努めている。離床センサー等を設置し、外出傾向を察知できるように見守りを行っている。	身体拘束等適正化のための指針を作成し、3ヶ月に1回、職員会議の中で委員会を持ち、身体拘束のないケアを目指して取り組んでいる。また、やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、説明同意書や経過観察記録も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待防止法等について学ぶ機会を持つようにしている。入浴時に異変を見過ごすことがないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を持てるよう、研修計画に組み入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族の意向を引き出せるような対応を心掛けている。退去時には、退去先へ情報の提供を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症対策のため、運営推進会議を開催できていないが、資料等を送付して、事業所の取り組みを伝えるようにしている。面会時には利用者の状態や受診状況、金銭管理状況を伝えるようにしている。	利用者一人ひとりに寄り添い、意思の疎通が困難な場合でも訴えを吸い上げるように努めている。玄関に意見箱を設置し、重要事項を掲示した上で、運営推進会議の記録や自己評価・外部評価結果のファイルを備え、家族がいつでも確認できるようにしている。また、利用者の暮らしぶりについて、面会時の他、年2回、担当者からの手書きの便りでも報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の中で意見交換の機会を設け、日々のケアについて話し合うようにしている。職員の希望や都合等を取り入れ、勤務体制を組んでいる。	月1回の職員会議は、利用者毎のケース担当者会議の他、3ヶ月に1回の身体拘束等適正化委員会の場ともなっており、理事長以下全職員が参加して、活発な意見交換がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	保有資格を活かした職員配置となるように配慮している。また、健康診断の実施により、心身の健康を保てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を設け、研修後は内部研修を行い、研修を受ける機会を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の協議会に加入し、交流の機会を確保するようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった場合は面談する等し、できるだけ利用希望者や家族等との信頼関係を築くことを意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受ける際には家族等の要望等に耳を傾け、信頼関係を築くことを意識しながら、対応を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に必要としている支援について話していただき、対応できる事は対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話の中で共に楽しみを共感したり、個々の得意分野を理解し、生活支援を行うようにしている。(タオルたたみ、テーブル拭き、折り紙等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話時、家族との情報交換を行い、家族の思いを把握すると共に、職員の気付きを共有し、共に支える関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会時は家族等からの情報を基に、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。また、希望に沿って馴染みの場所へ出かけることができるよう、支援に努めている。	入居時の聞き取りや普段の会話の中から、これまで関わってきた人や馴染みの場所を把握している。コロナ禍のため面会が制限され、電話での交流やガラス戸越しの面会を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、座席を考慮したり、職員も間に入ってコミュニケーションやレクリエーション等を行い、孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族から相談がある場合は、必要に応じて支援を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者とは話し、思いや意向を把握するように努めている。必要に応じて家族等より情報を得るように努めている。	担当職員は勿論、職員同士の情報共有により、日々の利用者の気持ちや表情の変化を見逃さず、意向に沿った対応ができるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時等、家族等から利用者の情報を収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通して、利用者個々の一日の暮らしの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意見・意向を把握した後、会議の中で意見を出し合い、その内容を介護計画に反映させるようにしている。	前回計画の評価をした上で、日常生活の関わりの中で利用者の思いを汲み取り、家族の意向も確認しながら、見直しに繋げている。利用者一人ひとりができる事、得意な事を取り上げて、個別具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に記入し、職員間での情報共有に努めている。また、ケアの実践や介護計画に活かすように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、外出支援等のサービスを取り入れるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署等に安全に暮らせるように協力をお願いし、地域の資源を活用できるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診状況を把握し、希望に応じて継続受診できるように支援している。状況に変化があった場合は家族に電話で相談する等、情報交換を行うようにしている。	入居時にかかりつけ医や受診状況を把握し、継続受診についても確認しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状況に変化があった時は、協力医療機関やかかりつけ医に状態を伝え、受診できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療の必要性が生じた時は、医療機関と利用者に関する情報交換を行う体制をとるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時に事業所ができる事・できない事について説明をするようにし、意思統一を図っている。家族等の協力を得ながら、事業所での対応が可能な限り、支援に取り組むようにしている。	医療行為が必要になった場合や経口摂取が困難になった場合等には対応が困難である旨、入居時にホームの方針を説明している。また、健康管理や急変時の対応について、利用者や家族、医療機関と話し合い、意思を確認して共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急救命の研修受講や内部研修を行うことにより、実践力を身につけられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に職員と利用者が一緒に避難訓練を実施することにより、避難方法を身につけるようにしている。また、消防設備等の点検を行っている。	日中・夜間を想定した避難訓練を利用者とともに行っており、コロナ禍前は、近隣のボランティアも利用者の見守り役として参加していた。また、定期的な設備点検の他、水やレトルト米、缶詰等、約3日分の備蓄品をリスト化して用意しており、年1回、賞味期限等のチェックも行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にするように心掛け、支援に努めている。	職員同士でケア場面を常に振り返り、利用者の尊厳を大切にできるよう、理念の実践に向けて取り組んでいる。また、プライバシーの保護や接遇等について勉強会を行っている他、なれ合いにならないように職員同士で声を掛け合い、日々の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の希望や思いを聞いたり、自己決定できる機会を作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	花植え等、希望を取り入れた支援ができるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は着替えを利用者に準備していただいたり、外出時は好みの服を着ていただく等、支援をしている。送迎を家族にお願いし、馴染みの理美容院に出かけられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の苦手なものは別の物で代用し、提供している。行事食等、利用者の希望を取り入れるように配慮している。	週3日が配食献立で、残りの4日はホーム内献立としているが、調理は全て職員の手作りとなっている。好き嫌いにも柔軟に対応し、おかゆや刻み、ペースト食等の個別の食事形態で支援しており、行事食等も楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分等の1日の摂取量を把握するように取り組んでいる。状態により食形態を工夫して、食事を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや一緒に行う等、一人ひとりの能力に応じた支援を行うようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに応じてトイレでの排泄ができるよう、自立に向けた支援を行っている。	毎日記録をとり、利用者毎の排泄パターンを把握して支援している。また、個々の排泄状況を踏まえ、おむつ等の使用を見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な話し合いにより、個々に合わせて下剤を調整するようにしている。水分を多めに摂っていただいたり、野菜をメニューに加える等、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の意向を取り入れ、声掛けや対応をするように工夫している。	週2回、午前入浴を行っており、一番風呂や熱い湯、ぬるい湯等、それぞれの好みになるべく浴えるように心掛けている。また、介護度の高い利用者のシャワー浴の際は、寒くないように2人介助でかけ湯をし、気持ち良く入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出後には休息を取り入れるように取り組んでいる。夜間、眠れない利用者には日中離床を勧め、生活にリズムをつけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の記録に薬の内容や用量等をファイルし、把握できるように取り組んでいる。薬の処方や用量が変更になった場合は、職員間で声を掛け合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙を折る等、利用者一人ひとりに合った役割を促し、気分転換等ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出先は利用者の希望も取り入れるようにしている。希望に沿えない場合でも、希望に近いような所へ外出できるように取り組んでいる。	日頃の関わりの中で、利用者が行きたい場所を把握できるよう、希望を引き出している。また、コロナ禍でも、利用者の体調に配慮しながら、小グループでのドライブ等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々に応じた金銭の額や用途に関する相談・報告等、家族等と相談するようにしている。利用者自らが金銭管理を行えるよう、職員が見守る等して支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける場合は支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面を活用して飾り付けを行う等し、季節を感じ取れるようにしている。リビング内に温・湿度計を設置する等し、過ごしやすい環境となるように調整している。	ゆったりとした広いホールに、テーブルやソファを配置している他、畳に小上がりがあり、利用者がそれぞれ好きな所で過ごせるようにしている。また、季節を感じられるような飾り付けを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには小上がりやソファがあり、気の合う利用者同士で過ごせるよう、居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や思い出のある物を持ってきていただくように働きかけ、居心地良く過ごせるように工夫している。	できる限り馴染みの物を持って来ていただくように働きかけ、衣装掛けやぬいぐるみ、写真、テレビ、引き出しラック等が持ち込まれている。また、季節の作品やイベントの写真を飾る等、利用者個々の状態に合わせ、安全に快適な暮らしができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態により、トイレ近くの居室を利用していただいたり、トイレや居室がわかるように目印を付ける等して、環境作りに取り組んでいる。		